

首都圏(千葉・埼玉)の活動紹介

1月18日午後「千葉あおぞら連絡会総会／新患者会結成」がおこなわれ、1月22日午前「埼玉県連絡会交流会」がありました。2月10日には川崎公害の「新春のつどい」が開かれます。首都圏の活動を紹介します。

千葉 あおぞら連絡会総会（1月18日）

千葉あおぞら連絡会総会が1月18日午後、市内「きぼーる」で開かれました。第一部が総会議事。共同代表の中村瓦（千葉県民医連常任理事）さんが開会あいさつ、議長に千葉土建・佐藤さんを指名、議事を進行。

来賓として、東京あおぞら連絡会・吉川理事長、市川の空気を調べる会・鈴木さん、杏林大学・江頭さんがあいさつ。伊藤章夫事務局長が活動報告・清水和作事務局長が方針提案。討議・議案採択のうえ、最後に共同代表の本原康雄（千葉労連議長）さんが「いよいよ新患者会が結成される。労働組合の春闘、医療・介護・福祉の社会保障の問題など諸課題が取り組まれている。

いま困っている患者の救済、将来にわたって困らないようにする取り組みが重要であり、あおぞら連絡会の活動を強めたい」と第一部をしめくくりました。



新患者会結成 第二部は「新千葉喘息等患者と家族の会」の結成総会。

公害健康被害補償法の認定患者の会とは別に未救済患者の会（新患者会）としての活動が始まりました。この日は原希世巴弁護士が「なぜ救済制度が必要か」の講演をおこない、東京公害患者会・石川牧子副会長は「ぜん息は治らないなかで対症療法が必要。患者は医療費の負担に苦しんでいる。いま医療費救済制度創設に全力を挙げているが、新患者会のみなさんと千葉県議会を動かしたい」とあいさつ。

喜びのコメント（濱島稔）

「新患者会の申合せと役員を確認しました。代表には濱島稔（船橋在住）副代表に河村聖樹（習志野市在住）事務局長に西川学（浦安市在住）の三人の東京患者会の会員を含む七人の役員が選出されました。今後一年間の活動計画を立て、患者会を大きくするために、あおぞら連絡会の協力や民医連健康友の会へ患者紹介をお願いしていく予定です。また千葉県議会からも国に対する『医療費救済制度創設を求める意見書』採択をめざし運動していくことを確認しました。」

埼玉 埼玉交流会（1月22日）

公害被害者四団体（アスベスト・大気汚染・ミナマタ・福島原発）に「公害総行動埼玉県連絡会」は1月22日午前、埼玉労連会議室で「交流会」を開きました。今回は埼玉県主要団体（埼玉労連・加藤さん、埼玉社保協・川嶋さん医療生協さいたま／埼玉県民医連・保土田さん）代表にも同席を要望。各公害被害者のたたかひの現状と公害総行動に理解を深めていただき、埼玉県交渉についての助言等を受けました。

次回交流会は3月1日に予定し、①埼玉県交渉の準備②6月の第43回公害総行動成功をめざす取り組みについて相談します。